

経済・金融概況

[アルゼンチン]

1. 景気概況

4-6 月期の実質 GDP 成長率は前年比▲3.4%と 6 四半期ぶりに減少した（第 1 図）。需要項目別にみると、個人消費を除いてすべての項目がマイナス寄与となったが、特に純輸出が同▲2.3%ポイントと大きく成長率を押し下げる要因となった。

景気は厳しい状況にあり、鉱工業活動指数は前年比で今年の 2 月からマイナスに転じ、7 月は前年比▲7.9%まで悪化した。消費者信頼感指数も昨年 11 月の 60.4 をピークに、8 月には 42.8 まで落ち込んだ。

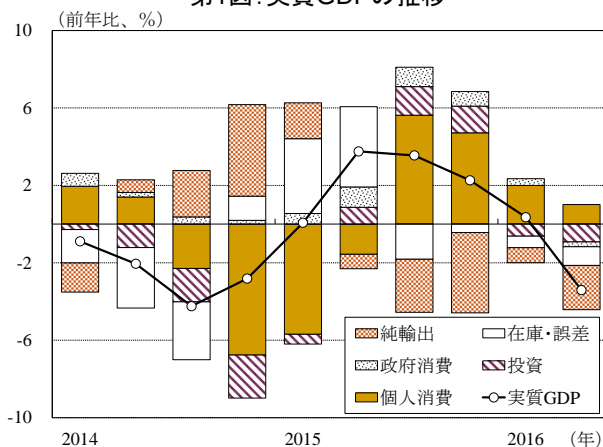
マクリ政権は、ペソの大幅切り下げ、公共料金の引き上げ、中銀の独立性を高めインフレ目標を導入する計画など、オーソドックスな政策運営への転換を進めている。今後については、2016 年は景気後退により、実質 GDP 成長率は前年比▲2.0%の予想、2017 年には政策の成果が現れ輸出などが回復し、実質 GDP 成長率はプラスに転じ、同+2.5%の見通しである。

2. 物価・雇用

物価：消費者物価¹は、公共料金の引き上げや為替切り下げにより、4 月以降、今年のインフレ目標である 20~25%を上回る前年比+40%以上で推移している。もともと、前月比では 5 月の+4.2%から直近 8 月は同+0.2%まで減速しており、インフレには沈静化の兆しも出てきている。

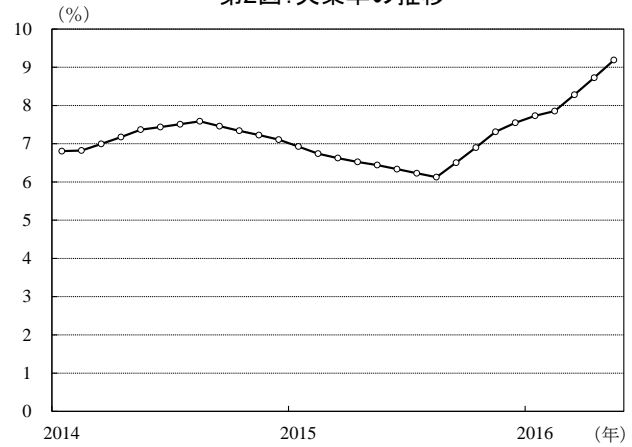
失業率：6 月は 9.2%と高水準かつ悪化傾向に歯止めが掛かっていない（第 2 図）。

第1図：実質GDPの推移



(資料)アルゼンチン国家統計センサス局統計より国通貨研究所作成

第2図：失業率の推移



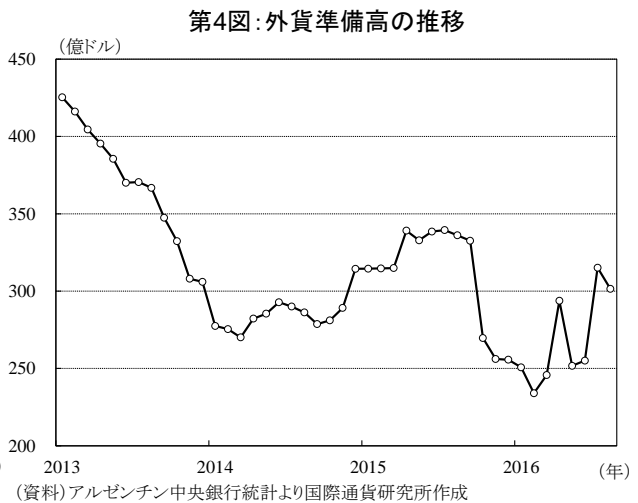
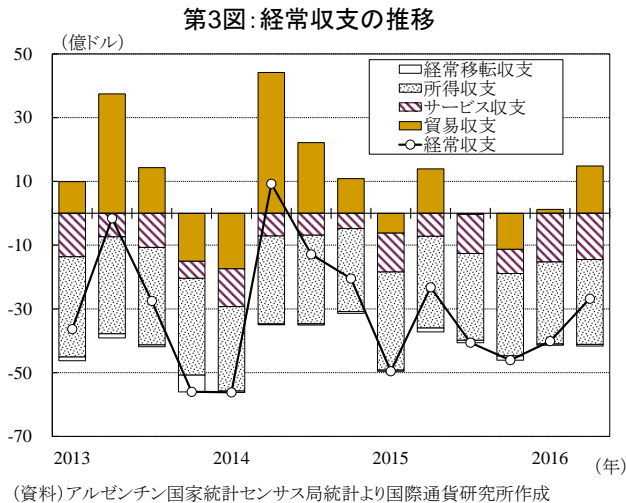
(資料)アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

¹ アルゼンチンの経済統計は、前政権下で改ざんの疑いが持たれ、2016年1月8日に INDEC が「統計緊急事態宣言」を発動し、一部の指数について前年10月分より発表を中止していた。最近になっていくつかの指数を発表し始め、新消費者物価指数は4月分より発表したが、過去の修正分は発表していない。

3. 経常収支、外貨準備高

4-6 月期の経常収支は 26 億ドルの赤字となったが、前期と比べ 13 億ドル赤字幅は縮小した（第 3 図）。赤字幅縮小は貿易収支の改善によるもので、貿易収支が +14 億ドルと前期比 +13 億ドルとなった。

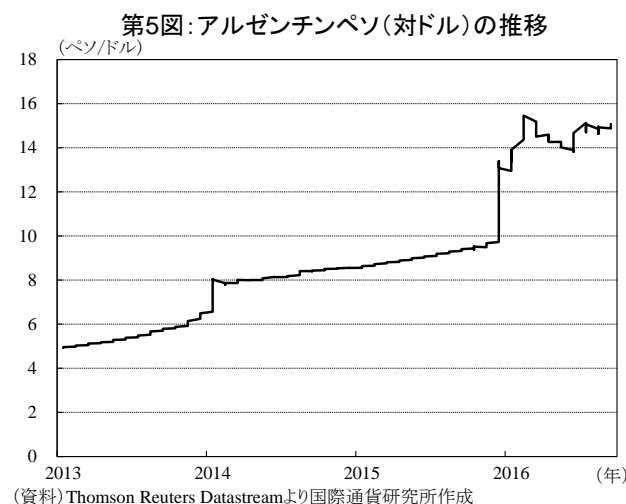
外貨準備高は、対内直接投資や対外借入の再開を背景に増加傾向にあり、8 月は 301 億ドルとなった（第 4 図）。もっとも、これは輸入の約 6 ヶ月分に止まり、景気好転に伴う輸入増加により、再び厳しい水準に陥る可能性がある。



4. 金融市場

為替：ペソの対ドル相場は、2 月に政府が米ファンドと債務返済案で合意し 4 月に国際金融市場に復帰したことで 6 月には一時 1 ドル 13 ペソ台まで回復した（第 5 図）。その後は、英国の EU 離脱選択を受けて投資家がリスク回避の姿勢を強めたことからペソ安に転じ、足元は同 15 ペソ前後で推移している。

株価：メルバル指数は、年初 10,000 ちょうど近辺から上昇基調にあり、足元では 16,000 前後で推移している（第 6 図）。



アルゼンチン経済・金融概況

1. 年次

	2013年	2014年	2015年
実質GDP成長率	2.3%	▲2.6%	2.4%
鉱工業活動指数（前年比）	▲0.0%	▲1.8%	-
建設活動指数（前年比）	4.6%	▲0.4%	-
自動車生産台数(千台)	791	617	527
自動車販売台数（千台）	964	614	587
失業率	7.1%	7.3%	4.9%
消費者物価上昇率(年末月・前年比)	11.0%	23.9%	26.7%
(年平均)	10.6%	-	-
輸出(FOB)(億ドル)	760	684	568
(前年比)	▲5.0%	▲9.9%	▲17.0%
輸入(CIF)(億ドル)	744	652	598
(前年比)	9.5%	▲12.4%	▲8.4%
貿易収支(億ドル)	15	32	▲30
対外準備(億ドル)（年末）	306	314	256
ベースマネー(億ペソ)（年末）	3,772	4,626	6,239
対民間非金融部門貸出量(億ペソ)(年末月)	5,085	6,167	8,385
(前年比)	31.2%	21.3%	36.0%
経常収支(億ドル)	▲121	▲80	▲159
株価指数（メルバル指数）（年末）	5,391	8,579	11,675
対米ドル為替相場（年末）	6.5180	8.4645	12.9450

2. 月次

	16/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実質GDP成長率（前年比）	┌──	0.5%	┌──	┌──	▲3.7%	┌──	┌──	-	┌──
鉱工業活動指数(前年比)	1.2%	▲0.1%	▲3.8%	▲5.2%	▲4.5%	▲6.4%	▲7.9%	-	-
建設活動指数(前年比)	「統計緊急事態宣言」により15年11月から発表停止。				▲12.9%	▲19.6%	-	-	-
自動車生産台数（千台）	18	34	46	44	40	42	38	44	-
自動車販売台数（千台）	50	52	61	61	60	63	53	64	-
失業率	7.7	7.9	8.3	8.7	9.2	-	-	-	-
消費者物価上昇率(前月比)	「統計緊急事態宣言」により15年11月から発表停止。				4.2%	3.1%	2.0%	0.2%	-
輸出(FOB)（億ドル）	39	41	44	47	53	53	50	-	-
(前年比)	1.5%	6.5%	0.9%	▲8.4%	2.7%	▲12.9%	▲10.9%	-	-
輸入(CIF)（億ドル）	40	40	47	44	49	51	47	-	-
(前年比)	▲3.6%	1.0%	▲6.6%	▲10.7%	▲1.8%	▲10.8%	▲17.3%	-	-
貿易収支(億ドル)	▲2	1	▲3	3	4	1	3	-	-
対外準備(億ドル)	251	234	246	294	252	255	315	301	-
ベースマネー(億ペソ)	5,883	5,591	5,730	5,726	5,762	6,312	6,611	6,797	-
対民間非金融部門貸出量(億ペソ)	8,434	8,569	8,597	8,784	8,987	9,233	-	-	-
経常収支(億ドル)	┌──	▲40	┌──	┌──	▲27	┌──	┌──	-	┌──
株価指数（メルバル指数）（月末）	11,306	13,116	12,992	13,724	12,682	14,683	15,804	15,649	-
対米ドル為替相場（月末）	13.9079	15.5700	14.5550	14.2615	14.0038	14.9363	15.0625	14.8975	-

（資料）アルゼンチン中銀、国家統計センサス局、経済省、Thomson Reuters Datastreamより国際通貨研究所作成

照会先：国際通貨研究所 佐久間 浩司 koji_sakuma@iima.or.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくごお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。